

2010年度

科目名	現代社会と人権(総合講座)B			
担当教員	中村 英一朗、李 和子			
配当	文 2・教育2・人間2	コード	53230	
開期	後期	講時	金曜日3限	単位数 2
授業テーマ	(後)前半:異なる国籍・民族の人々と共に生きる (後)後半:ジェンダーと人権問題			
目的と概要	<p>後期のこの講座は、現代社会における人権問題を「みんな同じでなくてはならない」ことが平等ではなく、【ちがいを豊かさに】とらえることを通して、在日外国人問題・男女平等問題を中心に設定し2名の担当者がそれぞれのテーマにそって講義やワークショップをする形式で行われます。</p> <p>後期前半は、「多民族・多国籍・多文化」社会へと進んでいる現在、異文化・異民族の存在に気づき、日本に住むようになった歴史的経緯、その国の政治・経済・文化、個人の思いを知る。外国人住民の渡日史、生活、人権問題についてビデオ等も使用し、異なる国籍・民族を持つ人々の人権が尊重され、多文化が共生する地域社会への展望を探ります。</p> <p>後期後半は、男女平等の観点(ジェンダー:社会的文化的に作られた性差)を切り口に、『当たり前』と思っていた自分の感覚も講義やワークショップを通して、自分が揺さぶられ成長する過程にする。また、そこから「人権」というものが、与えられるだけのものではなく、互いに尊重しあうものとして『権利と責任』というセットでとらえ直してみたい。</p> <p>これらを通して現代の「人権」を問い直し、ただ答えを教わるのではなくじっくりと一緒に考えていく機会にしたい。</p>			
成績評価法	(李担当)「講義時のミニ・レポート」(50%)と、学期末の「レポート」(50%)で評価する。 (中村担当)「講義時のミニ・レポート」(20%)と、学期末の「レポート」(80%)で評価する。			
テキスト	必要に応じて講義時に資料を配付します。			
参考書	必要に応じて紹介します。			
履修に当たっての注意・助言	後期の前半と後半で講師が変わる。レポートについては、それぞれ両方の講師から課題が出される。			
講義計画				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 異なる国籍・民族の人々と共に生きている私たち 国際化する「にほん」人類共通の課題は何ですか？ 2. 身近な「外国人」人権問題(その1) ビデオ視聴「いっしょに歩こう」豊かな国際化社会をめざして 3. 身近な「外国人」人権問題(その2) 定住外国人の類型～歴史的・社会的背景の多様化 4. 在日コリアンの歴史と生活(その1) 1900年～1945年 植民地時代の生活と渡日 5. 在日コリアンの歴史と生活(その2) 1945年～2009年 同化・排外から共生へ 6. 異なる国籍・民族の人々と共に生きるために(その1) 学校現場の今 子ども達の作文から 7. 異なる国籍・民族の人々と共に生きるために(その2) 地方自治体の外国人施策、多文化教育の現状、学びから実践へ 8. 男女平等問題の基本を身近な問題から考える 9. ジェンダーと学校教育 10. 「女らしさ」「男らしさ」から同性愛や性同一性「障害」について考えてみる 11. 結婚(将来のパートナーの条件)について自分の感覚を振り返る 12. セクシャル・ハラスメントについて 13. 「権利と責任」について考える 14. その『権利』を疑ってみる:人権を考える 15. 授業のまとめとレポート作成 				